事、埃囊抄に見えたり、かゝれば古へより漢名さだかならず、花史左編に出し天竺花也ともいひ、或説に農政全書にのせし胡枝子なるべしともいへり、又隨軍茶を訓せり、伊勢鈴鹿郡あのだ村に一株に千枝ある萩あり、昔大内の御用たりきといふ（中略）南京はどぎ稱するは小也、日光はぎと稱する品もありて、花觀つべし、みだれ萩は大しだれ也、別に草萩と稱する一種あり、短草也、合明草也といへり、仙臺はぎと稱するは紅芒決明也といへり、そとが濱ともいふ、

〔大和本草七花草〕天竺花　花史云、觀音菊、天竺花是也、五月開至七月、花頭細小、其色純紫、枝葉如嫩柳、其幹之長與人等、篤信曰、和名抄及漢語抄ニハ、鹿鳴草ヲハギト訓ジ、又萩ヲハギト訓ジ、萬葉集ニハ牙子ヲハギト訓ジ、又榛ノ字ヲモハギト訓ズ、和歌ニ多クハギノ花ヲヨメリ、中華ニハ不賞之、ハギニ數品アリ、其莖冬枯テ春新苗ヲ生ズルアリ、是ヲ小ハギト云、莖冬不枯シテ春莖ヨリ葉ヲ生ズルアリ、コレヲ木ハギト云、萬葉集ニ眞芽子ト云リ、宮城野ハギアリ、其花最ヨシ、是ハ冬カレテ、春宿根ヨリ苗ヲ生ズ、又白ハギアリ、絲ハギアリ、絲ハギハ花紅ニ盛久シ、ハギノ莖枯タルハ、籬トシ薪トス、

〔和漢三才圖會九十四末濕草〕胡枝花　和名波木　隨軍茶救荒　天竺花花史　鹿鳴草以下出和名抄　芽子花　芳宜草　荻音秋　蕭音宵中略○

按、胡枝花、叢生、枝長垂、蔽地、狀似絲垂櫻、而一極三葉、其葉似棗葉、又似南天燭、秋而不尖、柔軟、秋著小花、淡紫色、新撰万葉集菅丞相詩云、曉露鹿鳴花始發者是也、俗專用萩字、奥州宮城野、方二里許萩生茂、

万葉　秋宿の秋の芽子さく夕蔭に今も見えしか妹が姿も

有山萩、有白花者、有白紫開分者、北國山中有大木、可爲柱者、四國山中有南天燭大木、俱畿内人不信、

山萩又名眞萩　葉大、團有大木、雄萩葉大、亞山萩花、淺紫雌萩即宮城野　葉花小、共結實、褐色、大可豌豆、扁中有細子、